

ペルー 2022-23年度の生食用ブドウ輸出は10%増加

FreshFruitPortal 2023年7月14日

ペルーの生食用ブドウ産業は、2022-23年度に合計7,140万箱(8.2kg/箱)を輸出し、これは前年度比10%増となった。

ペルー生食用ブドウ生産者協会(Provid)のアレハンドロ・カブレラ会長は、「一部の地域では栽培面積が5%増加しており、これが生産量の増加を説明するほか、出荷が始まった新しい品種も加わる。数年前に新品种に改植された面積に新植面積が加わり、特に新しい品種は非常に収量が高いため、出荷量が増加している」と述べた。(以下「」は同会長の発言)

同会長は、最も増加した品種は前年比70%の成長を遂げたオータムクリスプであり、次に同38%増加したアイボリー及び同35%増加したスイートグローブであると説明する。「ペルーではこれら3つの種なし白ブドウ品種に最も偏重しており、2桁の成長を示している。」

市場 同会長は、ペルーの生食用ブドウの主な輸出先の1つはメキシコで、出荷量は350万箱から530万箱に前年比50%増加したと述べた。「増加したもう一つの輸出先は台湾で、1シーズンで60万箱から100万箱に50%増加した。しかし、最大の輸出先は米国で、2,600万箱から3,200万箱以上に22%増加した。」

価格 - 販促活動 市場への出荷量の増加に関しては、「他の経済活動と同様に、ペルー産生食用ブドウの特定の市場へ特定の時期の供給量の増加は、価格の低下を引き起こす。価格に影響を与える可能性のある市場の飽和を避けるために、輸出先への出荷のタイミングについて非常に賢明になる必要がある。」

課題 同会長は、主要な輸出国であることは複数の課題を伴うと述べている。「そのうちの1つは、供給の増加は価格の下落を防ぐための需要の増加を伴わなければならないということである。したがって、我々の業界の役割は、ペルー産の果実が輸出先でうまく受け入れられるように、新しい消費習慣や新しい好みを助長することである。」

ペルー CPTPP でハスアボカドをマレーシアに初出荷

FreshFruitPortal 2023年7月17日

環太平洋パートナーシップに関する包括的及び先進的な協定(CPTPP)の批准からほぼ1年経ち、ペルーではマレーシア市場への初めてのハスアボカドの輸出があと数十日後に迫っている。

ハスアボカド生産者協会(ProHass)のファン・カルロス・パレデス会長は本サイト(FreshFruitPortal.com)に対し、「我々は今、マレーシアの衛生当局の署名を待っている。今後34~40日以内に輸出許可が得られると見ている」と語った。同会長は、要件はヨーロッパ向けの要件と類似しており、「生きた病害虫と検疫病害虫が付着していないという植物検疫要件に加えて、乾物重が21.5~29%であることだ」と付け加えた。

市場の予測

パレデス会長は、マレーシアの市場は人口約7千万人と非常に大きいと指摘した。これにより、消費動向は韓国や中国と同様になると見られる。同会長は、「ProHassは世界アボカド機構(WAO)の理事を務めているが、そこではインドへの輸出促進に努力しており、予算も割り当てられている。来年はマレーシアが含まれることを願っている」と述べた。

ペルー産ハスアボカドの出荷シーズンは通常4月から9月までで、マレーシア産とは季節が逆になる。パレデス会長は、当初は週に出荷されるコンテナ数は少ないだろうとして、「最初は多くの輸出業者がマレーシア市場を試してみて、その反応によっては徐々に増加する可能性がある」と指摘した。

ProHassはまた、現在40~45日かかっている輸送時間を短縮するため、船会社と協力することとしている。